

「防災スペシャリスト養成」有明の丘研修 令和5年度 第2期

「対策立案」コース（上級管理）

【各講義の内容と学習目標】

オンデマンド：R6年2月5日（月）～ 3月4日（月）
演習：R6年2月28日（水）

| 形式 | 単元No. | 単元名 | 単元の概要 | 講義No. | 時間 | 講師 | 学習目標 | |
|--------|-----------------------|---|---|-------|--|--|---|--|
| オンデマンド | 1 | 対策立案総論 | 災害対応における対策立案の考え方と情報統括、活動サイクル、体制について学ぶ。 | 1-1 | 64分 | 林 春男 (京都大学) | <ul style="list-style-type: none"> ハリケーンサンディに学ぶ2種類の災害時業務の存在について説明できる。 対策立案過程について説明できる。 事前計画と当面の対応計画の関係について説明できる。 災害対応の世界標準から見た対策立案の業務範囲について説明できる。 | |
| | | | | 1-2 | 39分 | | 世界標準に則した災害対応体制の構築 | <ul style="list-style-type: none"> 災害対応でやるべきことについて説明できる。 効果的な災害対応を実現するために市町村がはたすべき役割について説明できる。 Incident Command System (ICS) を基本とする組織編制・運営について説明できる。 |
| | | | | 1-3 | 31分 | | 平時業務を世界標準に即した災害対応業務にどう変換するか | <ul style="list-style-type: none"> 災害発生後に基礎自治体が行うべき業務の全体像を把握できる 世界標準に即した災害対応業務が5つの役割で構成されていることを理解できる 市町村が中心になって活躍する災害対応業務6+1を理解できる 平時の業務を世界標準に即して災害対応業務に変換することができ(ICS準拠) |
| | 2 | 指揮統制の世界標準(危機対応に必要な役割(部門)と機能) | 世界標準における危機対応組織の仕組みを学び、リーダーに求められる4つの役割を学ぶ。 | 2 | 49分 | 秋富 慎司 (東北大学 災害科学国際研究所、日本医師会 総合政策研究機構) | <ul style="list-style-type: none"> 機能的な役割分担：ICS (Incident Command System)について説明できる。 時間の使い方：Planningについて説明できる。 対策立案方法：IAP (Incident Action Plan)について説明できる。 | |
| | 3 | 災害対策本部が行う対策立案プロセス | 「当面の対応計画(インシデント・アクション・プラン)」の果たすべき役割と基本的な構造、立案のプロセスについて学ぶ。 | 3 | 56分 | 林 春男 (京都大学) | <ul style="list-style-type: none"> 災害対策本部の活動サイクルについて説明できる。 当面の対応計画の策定について説明できる。 当面の対応計画策定のための災害対策本部での情報処理について説明できる。 災害対策本部会議の進め方について説明できる。 | |
| | 4 | 地図による状況認識の統一とISUTの試み | GISによる統合された情報提供の必要性和ISUTの有効性について学ぶ。 | 4 | 70分 | 田口 仁(防災科学技術研究所) 塚 偉(内閣府) | <ul style="list-style-type: none"> 地理情報システム(GIS)の必要性を説明できる。 GISとは何かを説明できる。 GISを活用するためのポイントを説明できる。 統合的な情報共有システムの構築に向けて説明できる。 大規模災害時の国による情報集約支援(ISUT)の仕組みについて説明できる。 | |
| 対面 | 演習 | 災害対策本部運営演習 | 災害発生後の限られた情報の中で状況を推測し、対応方針を検討し、計画を立案し、活動を調整しながら、災害対策本部会議において対策を決定する手法を学ぶ。 | 5-1 | 4分 | 林 春男(京都大学) 伊藤 学(消防庁) 前田 竜吾(警察庁) 竹内 一博(防衛省) 寄高 昭(海上保安庁) 岩崎 等(国土交通省) 近藤 久禎(国立病院機構本部 DMAT事務局) | <ul style="list-style-type: none"> 災害応急期に実施される緊急消防援助隊の活動について説明できる。 災害応急期に実施される警察災害派遣隊の活動について説明できる。 災害応急期に実施される防衛省・自衛隊の災害派遣活動について説明できる。 災害応急期に実施される海上保安庁の活動について説明できる。 災害応急期に実施されるTEC-FORCEの活動について説明できる。 災害応急期に実施されるDMATの活動について説明できる。 | |
| | | | | 5-2 | 9分 | | | |
| | | | | 5-3 | 12分 | | | |
| | | | | 5-4 | 24分 | | | |
| | | | | 5-5 | 17分 | | | |
| | | | | 5-6 | 18分 | | | |
| | | | | 5-7 | 24分 | | | |
| 6 | 効果的な災害対応計画・マニュアルの作成方法 | 災害対応計画の果たすべき役割と基本的な構造、マニュアルの作成について、災害対応の事例を基に学ぶ。 | 6 | 70分 | 井ノ口 宗成(富山大学) 東田 光裕(ADD研究会) | <ul style="list-style-type: none"> WBS形式によるマニュアルの整理について説明できる。 WBS-M/ACEの基本操作の流れについて説明できる。 マニュアル作成演習(避難所運営マニュアル)について説明できる。 マニュアル作成のポイントについて説明できる。 | | |
| 7 | 災害対策本部運営演習 | 災害発生後の限られた情報の中で状況を推測し、対応方針を検討し、計画を立案し、活動を調整しながら、災害対策本部会議において対策を決定する手法を学ぶ。 | 7 | | 山本 晋吾 (兵庫県立農林水産技術総合センター) 新堀 賢志 (火山防災推進機構) | <ul style="list-style-type: none"> 災害対策本部の運営について説明できる。 | | |
| 8 | 全体討論 | 災害対応マネジメントにおける計画立案について学んだことを、災害対策本部運営にどのように反映させるのかを考える。 | 8 | | 林 春男(京都大学) | <ul style="list-style-type: none"> 研修受講の目的を再認識する。 研修を通じて、学び、得たものを整理する。 研修を活かして次につなげることを認識する。 | | |